

【鹿児島市】対策委員会を開催

鹿児島市では、5月1日に自殺対策委員会、8日にDV対策委員会及び交通安全委員会が開催され、JISCも同席しました。



鹿児島市は、対策委員会でワークショップを行わなかった関係もあり、これまで JISC が対策委員会の議論や進捗状況を踏まえたアドバイスを差し上げる機会が少なかったことから、今回、事務局の調整により、いくつかの対策委員会の進捗状況をみせていただく機会を得ました。

基本的に、SC における「対策委員会」は、これまで行政が主導してきた計画策定に関する審議会等とは性格が異なります。行政も住民も活動の主体者としてフラットな立場で議論し、実践まで進むにはかなりの時間を要します。日本では、行政は主導的な役割を担いがちですし、住民も「行政がやってくれる」という思いで議論を進める傾向にあります。しかし、SC では、従来のやり方からシフトし、地域の協働を進めるための「地域としての育ち」が求められます。

鹿児島市さんは SC に取り組む自治体のなかで最も人口規模が大きいこともあり、設置する対策委員会も多く、事務局は調整だけでも大変ですが、その一方で、対策委員会に参加されている委員のバックグラウンドは多様で、社会資源の豊かさは大きな強みです。また、地域活動も活発ですので、今後の「コミュニティ」としての育ちが期待されます。

【甲賀市】専門家の招聘に向けて推進協議会

5月9日、甲賀市では、海外から専門家を招聘してこれまでの取組みを視察いただくにあたって、推進協議会において当日の報告内容を説明しました。

まず、事務局より今回の SC 審査員資格を有する専門家による視察の位置づけと意義、全体的な流れを説明したの



ちに、対策委員会及びサーベイランス委員会の委員長がパワーポイントを用いて本番さながらの報告を行いました。

それらの報告を受けた後、推進協議会の委員による協議が行われました。委員会のみなさんは、すべての報告を休憩もなく一気に聞か

れたにもかかわらず、細かな部分の整合性までしっかりと確認していただき、報告後には次々と質問や助言をくださいました。その結果、予定の時間を大幅に過ぎましたが、本番に向けての最終確認とともによいリハーサルとなりました。

【海外】第7回アジア地域 SC 会議 in 釜山

5月12～15日、韓国釜山において第7回アジア地域セーフコミュニティ会議が開催されました。13か国80コミュニティから200人を超える参加がありました。日本からも、多くの方が参加され、JISC が把握している範囲では、10自治体(亀岡市、厚木市、箕輪町、豊島区、小諸市、横浜市栄区、松原市、久留米市、北本市、秩父市)から30人を超える参加がありました。参加された方は、ポスター報告、口頭報告、そしてブース展示など多様な方法で日本における SC を報告されました。特に、口頭報告については、国際会議であるため、英語が条件ですが、SC 及び ISS に取り組む自治体から5件以上の報告がありました。



まず、5月12日(午前)には、本会議に先立ち、「プレコンフィレンス」が開催されました。第一部は、各国で SC を支援している支援センターなどを対象としたワークショップで、JISC 白石も継続的な SC 活動における質の確保について、日本の取組みを事例にお話しました。協働センター(WHO CCCSP)長からは、JISC の支援方法及び日本の SC の進め方について高い評価をいただき、報告内容については、協働センターでも引用したいとご要望いただきました。



第二部では、SC に取り組む自治体等を対象に、第一部での報告を支援センター等が中国語、韓国語、タイ語、日本語の言語ごとに分かれて解説し、それをもとに議論をしました。残念ながら日本語セッションでは、自治体からの参加者は多くはありませんでしたが、その他の分野の方たちの関心は高く、休憩も取れないほどの盛りだくさんの内容に疲れる様子もみせず聞き入っておられました。

続く12日午後は、釜山市の認証式典が執り行われました。この度、市内の小学校2校もセーフスクールに認証されましたので、学校と合わせて合同の認証式となりました。



一般的に、韓国では、認証式の後には有名な芸能人などによるコンサートなどを盛大に行うことが多いのですが、今回は、フェリーが転覆し多くの命が失

われるという惨事が発生して間もなく、国を挙げて追悼している時期でしたので、式典は非常にシンプルなものに変更となりました。コンサートの代わりに、セーフスクールに認証された学校の児童による歌などが披露されました。また、公式の祝賀会も直前でキャンセルとなりました。



しかし、その代りに大会長が海外からの招へい者を招待し、ささやかな歓迎の会を開催し、各国の支援センター及



び市長等を伝統的な韓国料理でもてなしてくださいました。

続く 13 日からの本会議は、中国本土からの参加者は多くなかったものの、日本はもちろん台湾やタイ、ベトナムそしてイランなどアジアを中心とした各国から多くの方が参加され、閉会式まで多くの人であふれていました。

13 日の午後には、今回初の試みである、首長ラウンドテーブルが開催され、日本からは 6 自治体の首長(箕輪町、豊島区、厚木市、松原市、北本市、秩父市)が出席され、それぞれの政治家として立場から SC 推進について報告されました。



また、13日には、日本 SC の懇親会を開催し、首長を含む自治体や学校関係者および日ごろからご支援くださっている方たちがそれぞれに交流を深めました。



さらに、それら盛りだくさんの行事の間を縫って、セーフコミュニティ支援センター会議、アジア地域 SC ネットワーク会議、アジア地域セーフスクール認証センター会議が開催され、今後の運営についても様々な協議が行われました。加えて、最終日には、SC 協働センター(WHOCCSP)が韓国・台湾・日本の SC 支援センターを招集し、急きょ会議が行われました。SC 協働センターは、これら3センターの活動を高く評価され、SC 協働センターのアドバイザーとして任命いただくこととなりました。

【ISS】トラベリングセミナー(開花小学校)

アジア地域 SC 会議に続き、5 月 16 日には、トラベリングセミナーが開催されました。



午前中は、朝鮮戦争時に移住してきた低所得層の方たちの居住エリアの再開発プロジェクトを視察しました。かつて山に張り付くように建てられた小さな家々は、次第に住む人も少なくなり、治安の面からも課題となりつつあるなか、若い芸術家の拠点とすることで、芸術村に生まれ変わらせ、防犯にもつなげている地域です。今では、観光客が多く訪れるようになり、観光による収入で地域の環境も次々と改善されているとのことでした。

午後には、セーフスクールの認証を受けた2校のうち「開花小学校」を訪問しました。日本とは異なる側面もありましたが、子どもたちが楽しく安全を実践できる仕組みづくりを工夫されており、参考になる点多々みられました。特に、安全について学ぶ「安全ルーム」では、子どもたちが交通安全や火災時の行動などさまざまな活動を実践して見せてくれました。

これらの活動をはじめ、ISS 活動は YouTube でも公開しています。

○児童の SC 会議開会式でのパフォーマンス

https://www.youtube.com/watch?v=QVMj4_uQq5Y

○ISS 認証を受けた開花小学校を紹介したビデオクリップ

<https://www.youtube.com/watch?v=Rk4y3moQwfo>



【甲賀市・十和田市・秩父市】

専門家による活動視察

5月22日より30日にかけて、パイル先生(台湾)およびチョ・ジュンピル先生(韓国)をお招きして、甲賀市、十和田市、秩父市の活動を視察いただきました。

甲賀市と秩父市は、来年に予定しているSC認証申請に向け、そして十和田市は、今年度の再認証申請に向けて、活動の方向性を確認するとともに、アドバイスをいただき、今後の活動に生かすことを目的として実施しました。また、現地審査と同様の進行をすることで、本番に向けての準備する際の参考になりまし、関係者にも審査のような雰囲気慣れいただくことができます。



《甲賀市：5月22-23日》

甲賀市の視察に先立ち、前日に市長と面談し、甲賀市がSCを導入した経緯や市長としての決意等をお話いただきました。



その後、関係者によるレセプションでは、地域の方たちと交流するとともに伝統文化を体験されるなど楽しいひと時を過ごしました。

22-23日は、本番さながらの雰囲気のなかで、甲賀市の全体的な取組概要や各対策委員会の取組状況をご報告いただきました。いずれの対策委員会も、これまでの約10回にわたる議論の成果を報告しました。じっくりと議論をしているため、まだ重点課題の抽出と方向性の設定ができた段階ですが、先生方からは高い評価をいただくとともに、今後の進展を期待しているとのコメントをいただきました。また、サーベイランス委員会についても、その機能と役割、推進協議会や対策委員会との連携をしっかりと示しており、高い評価をいただきました。



《十和田市：5月25-26日》

続く十和田市では、2009年の認証時からの取組を中心に、6対策委員会と市民グループ「SC十和田を進める会」が報告をされました。SC十和田を進める会は、様々な分野における安全に対して強力なパートナーとして活動を展開しており、その工夫は他の自治体にも参考になるものが多くありました。また、懇親会もSC十和田を進める会が主催され、地域活動がSCに大きくかかわっていることをみることができました。



また、市内を歩きながら、様々な啓発の工夫をご紹介いただきました。特に商店街のアーケードに中学生が描いた安全向上に向けたメッセージは、多くの方の関心を集めているとのことでした。



再認証に向けた申請を控えているということもあり、他の自治体からも関心がよせられました。

《秩父市：5月28-30日》

秩父市には前日入りし、伝統的な絹織物について体験させていただいた後、市長はじめ関係者の方たちとの面談し、それぞれのお立場からのSCへの期待や貢献についてお話をいただきました。

続く28日からは2日にわたって対策委員会の活動状況の報告をするとともに、いくつかの取組を視察しました。いずれの報告も論理的な課題設定に基づいた方向性が示されており、両先生は、今後の展開に対して高い期待を表されました。



また、最終日の30日午前には、ISSに取組んでいる3学校(1中学、2小学校)を訪問しました。各学校の報告をうけ、先生方は、安全診断をはじめ取組において各種データをいかに活用するかについてその重要性と方法等について示されました。

【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構